

1 研究主題

「主体的に学ぼうとする態度を育てる学習指導の工夫」
～ナビシートの作成、活用と対話的な学びを通して～

2 主題設定の理由

本校は、平成28年度から2か年、県の活用力向上事業の指定を受け、「習得した知識・技能を生かし活用力を高める学習指導の工夫」という研究テーマのもとに研究を進めてきた。2か年の取組を通して、児童生徒の既習事項を生かそうとする態度や、学習課題に対して主体的に取り組もうとする姿勢に好転的な変容が見られた。しかし、児童生徒の個人の能力差が大きいことに加え、学ぶ意欲や目的意識の低さという点で課題が残った。また、自分の伸びや高まりを実感できない、自信をもてない、といった自己肯定感の低い児童生徒が依然として多いことも課題としてあげられる。

そこで、昨年度はこれまでの研究内容をもとに、児童生徒の「主体的な態度の育成」に焦点をあてた取組を行った。児童生徒自らが学ぶ目的や目標を明確にもち、学習のねらいや課題を達成するためにナビシート（単元学習計画表）を作成し、活用を図って研究を進めてきた。今年度は、対話的活動を取り入れ、主体的に学ぼうとする児童生徒の態度の育成を図っていく。そのためには、授業研究会を計画的に行いながら、再度授業づくりの視点から学習指導を見直し、指導法改善を図っていくことが大切である。小中が同じ方向性をもちつつ、9か年を見通した系統的な取組となるよう、全体、部会、個人での研修をバランスよく設定していきながら研究を進めていきたい。

3 研究の目標

各教科等の指導において、目標と評価の一体化が見えるナビシートを作成し活用することと、対話的活動を授業に取り入れることを通して、教師の授業力改善を図るとともに、児童生徒の主体的態度を育てる。

4 研究の仮説

各教科の指導において、身に付けさせたい力や授業のねらいを明確にし、めあてと評価の一体化が見えるナビシートを作成・活用すれば、児童生徒が自分の伸びや高まりを実感しながら主体的に学習に取り組もうとする態度を育てることができるだろう。

児童生徒が個人で考えたことを、意見交換したり、議論したりする対話的活動を授業で仕組み、児童生徒が新たな考え方に気付いたり、自分の考えをより妥当なものとしたりして、自分の考えを広げたり深めたりしながら、主体的に学習に取り組もうとする態度を育てることができるだろう。

5 研究の内容

- (1) 各単元で育てたい資質や能力、単元の目標を具体的に分析し、児童生徒の学習状況や実態に合った単元構成を行う。
- (2) 教師が教えること、児童生徒が身に付けることを明確にしたうえで、目標と評価の一体化が見えるナビシートを作成する。

- (3) 対話的な活動（学び合い学習）の目的を明確にしたうえで大町型授業【発見・探求型】授業の実践をする。

6 研究の方法

- (1) 国・県の学習状況調査、標準学力調査等における児童生徒の学力・実施調査の分析
- (2) 児童生徒の発達段階や教科の特性を考慮した単元指導計画立案と単元学習計画表の作成及びその共有化
- (3) 講師招聘による講話・指導助言・文献研究
- (4) 検証授業および事前の指導案検討、事後の授業分析
- (5) 学習環境の整備および「聖テスト」「期末テスト」「学習クイズコーナー」等の充実
- (6) 先進校視察

7 研究の組織とその内容

- (1) 研究推進委員会（校長・副校長・教頭・研究主任・副主任）
研究全体の方向性や進め方について検討や修正を行い、研究の円滑な運営を図る。
- (2) 全体会
研究内容や方法についての検討や授業研究会及び事後研究会を通して、研究を深める。
- (3) グループ部会・ブロック部会
共同で授業研究や教材研究を進め、具体的実践を通して研究を深める。
- (4) 専門部会
学習習慣づくり、学習環境の整備、「聖テスト」「期末テスト」「学習クイズコーナー」等の充実を図る。